

そいつは、もう音の支配者だ

BOSS

エフェクター コンパクト 事典

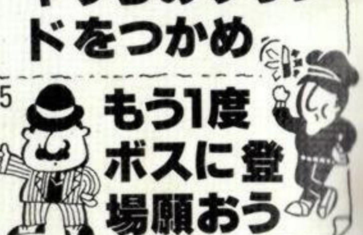
Vol.1



おれはエフェクター界の首領（ドン）、BOSS。新しいサウンドの世界に切り込んでいくのがおれの仕事。この本はそんなおれのバイオグラフィ、じっくり読んで、まずおれをよく知ることだ。おれをうまく使いこなせる奴。そいつは明日のミュージック・シーンのボスになれるんだ。

もくじ





弾ける君にボスからのメッセージ



まず音にほれ込むことだ。

ハムバッカーのしなやかな音やディストーションのきいた音。シングルコイルの切れ味の良いシャカシャカの音や、ハーフトーン。
ジェフ・バクスター、トム・シュルツがあみ出したサウンド、全くもってゴキゲン。いいな、と思ったら、とことんほれ込むこと。
これがうまくなるコツ。あとはオレとうまく手を組めば、奴らのサウンドはいただきだ。

そして、コピーができればしめたもの。次は自分で新しい音を開拓していくことだってできるんだ。
がんばれよな、オイッ。



時代遅れの奴はいないだろうな。

今はエレクトリック時代も第三世代。より個性的な音を創り出すのはもう常識。新しい音をつくり出そうとする探求心がエフェクターを生み、そのエフェクターを駆使して個性的な音を生み出す。
もうエフェクターはプレイには欠かせないところまできているんだぜ。ギターはもちろん、ベース、キーボードにだって使われているんだから。
音の世界は広く、無限の可能性があるから楽しいぜ。

いよいよ俺の出番だぜ。

ロンドンでも、ウェストコーストでも、ニューヨーク、東京でも、ボスは活躍中だ。
一度エフェクターを使い出したらやめられねえ。この無限の可能性を秘めた奴にのめり込んでしまうんだ。
リー・リトナーも、ジェフ・ベックも、クラプトン、ハービー・ハンコックもボスのとりこさ。
エフェクターは、これからなんていっている君だって、たちまちボスのとりこになるぜ。

BOSS

エフェクターとは

EFFECTOR
または
EFFECTER

つまり、音に効果を与える、という意味。これは日本だけの呼び方なんだ。本来は、付け加えるもの＝アタッチメントというのが総称だ。また足元におくユニットということで、フットボックスとも呼ばれている。そもそもエフェクターとは音に電気的な処理をして、新しい音をつくりだすために生まれたもの。最近では、多種のエフェクターがステージはもちろん、スタジオやレコーディングに使われている。だから大型のものやラックマウント型のものまで出現しているぞ。

ボスファミリーは個性派ぞろい。



ボス!!腰の太さはさすがだぜ。

ブリティッシュ・ハードやヘヴィ・メタルな音ならDS−1だ。

アンプをフルボリュームにしなくてもディストーションがかかり、同時にサステイン効果も。うねりのある腰の太いサウンドはロック・ギターの基本だ。こいつはエフェクター界きっての古顔なんだぜ。しかもこのDS−1はファズの様に原音をすべて歪ませて、フォルテシモもピアニシモもない、というようなものでなく、たくましく歪んだサウンドにピッキングの強弱はそのままあらわれるので抑揚の表現もそこねることはないし、アンプのトーンコントロールによって様々なバリエーションをつくることも可能だ。
高音を強調するにつれてディストーションサウンドも鋭どさを増してくる。また、ディストーションのかかりを良くするために、ギターボリュームの位置にも注意が必要だぜ。



¥8,000

ボス!!オーバー・ドライブにメロメロですぜ。

ウエストコーストやサザンロックのソフトでクリアーなオーバー・ドライブ・トーンならOD-1だ。

ギターの原音をそのまま生かし、アンプをオーバードライブさせることにより、ソフトなディストーションが得られるんだ。イーグルスやドゥービーの世界が見えるぜ。文字どおりチューブアンプをフルアップさせたような、ナチュラルなオーバードライブトーンは、ピッキングの強弱による抑揚にも、フィンガリングの細かいテクニックにも活かすことができる。またギターの原音を変えることなく出せるよう高音域もクリヤーなものになっている。

参考 オーバードライブとは

チューブアンプをフルパワーで酷使して、チューブアンプ特有の自然な感じのディストーションサウンドを得ること。



¥8,500

ボス!!このアクセサリーはきらびやかで華やかですぜ。

きらびやかに変化する高音域の美しさなら、SP-1だ。

楽器の音に、ある周波数のピークをもたせて強調する。と、どうだろう、音色が変化した。こいつは新兵器だ。特に高音域の変化を多彩にするおシャレな奴だ。もちろんストローク奏法などで、強調したいフレーズのところでアタック音がもっとハッキリと出てくれればなァと思うことがあるだろう。

そんなときこそ、このSP－1がピッタリなのだ。音量補正回路によってノーマル／エフェクト切替時の音量差がないので気を使わずに使えるのも嬉しいじゃないか。演奏テクニックを活かしてユニークな音づくりをねらいたい時には、最高のユニットだ。

使い方のポイント

音づくりには欠かせないエフェクター。単体でも使えるが、ディストーション系のエフェクターと組み合わせると、より面白い音づくりが楽しめる。

周波数は、500Hz〜5kHzまで連続可変できるから、気に入った所にセットしょう。バランス・コントロールでピークの強さも自由に設定できる。ベースギターに使用するとゴキゲンだ。



¥9,000

ボス!!ワウワウの味付もゴキゲンですぜ。

ファンキーなカッティングにぴったりのオート・ワウならTW-1だ。

ピッキングの変化やギターのボリューム設定によってワウ効果のいろんなバリエーションがつくれる。ギターの原音は材料。タッチワウで味付けを楽しもう。

もうひとつウレシイのがドライブスイッチでUPの時はワウなんて立ちあがりに音色が固くなって次第にやわらかくなるのだけど、DOWNの場合はチョンワーという感じで通常のワウとは逆に瞬間的にやわらかく次第に固くなってくる。これは強烈で、しかもなかなか魅力的だ。しかもよくあるオートワウのようにエフェクトオンのときにも音量が下がったりしないんだぜ。

使い方のポイント

センスの調整がTW－1の使いこなしのポイントだ。例えばフィンガリングやフィンガーピッキングの様に弱いピッキングの場合は右に回して感度を上げ気味に、アタックの強いコードストロークなどでは左側に回し切っても充分だ。



¥9,500

応用

ハードロックのギターソロの時なんかDS-1とのコンビで弾きまくるのもグーだぜ。

ボス!!イコライザーは音づくりのプロだぜ。

シャカリキサウンドからソフト＆メローまで
多彩な音づくりならGE-6だ。

音を補正するだけのイコライザーは昔の話。今は、もっと積極的なサウンドづくりのために欠かせない顔役だ。
おまけにコンパクトな機能性。
つまり､100／200／400／800／1.6ｋ／3.2ｋと6素子で100Hz～3.2kHzまでの範囲でコントロールが可能。E･ギターの音色を決定する最も重要な音域をキッチリ押えているのはさすがだが他のエフェクターとのコンビネーションにも、力を発揮する。例えばＯＤ－１のうしろにつないでオーバードライブ･トーンのバリエーションに、フェイザーＰＨ－１の前につないで音色にクセをつけたり、フェイズ効果を強調したり、etc。
こりゃミュージシャンの強い味方になるぜ。



使い方のポイント

ブースターとしても使おう。トレブルブースト、ベースブーストも思いのままだ。せっかくの切りかえスイッチ、上手につかおう。

応用

ベルトにつけて
手元での操作もOK。



オクターブごと10バンドで±12dBの変化が可能な、本格的イコライザーならGE-10。GE-6の兄貴分だぜ。

¥12,000

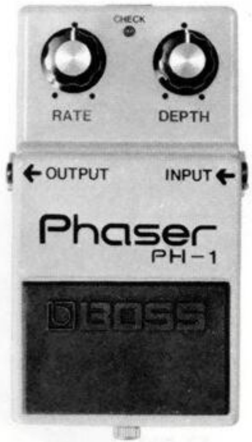
ボス!!フェイズサウンドはとってもイイ気分にしてくれますぜ。

超低速(16sec)から高速(100msec)までの
シャープなフェイズ効果ならPH-1だ。

一度とりつかれると離れられない奴。そいつがフェイズ・サウンドだ。古くはクラプトンのハーフ・トーンからジェット・マシーン。浅くフェイズをかけてレガート気味にコードをきざんだり、アルペジオなどでシャープなフェイズ効果が得られるファンキー、フュージョン、ウエストコーストのバッキングには欠かせない。デプスを深めて原音とはちがったサウンドを、ソフトなフレーズのソロにも効果的だ。エレピや電子オルガンに接続すれば回転スピーカのようなサウンドを得ることだってできるんだぜ。
いくら奇妙に心地よいサウンドだからって、つかいっぱなしじゃダメですぜ、ボス。

使い方のポイント

どちらかと言えばストラト系の音の方がフェイズらしさがただようのだ。



¥10,000

ボス!!サステインは ロングでなくっちゃ。

ロングトーン、しなやかに伸びる音ならCS-1だ。

時間と共に消えていく運命の音。これを持ち上げ持続させ、音に伸びを与える。こいつはボス・ファミリーの救世主だぜ。おまけにローノイズ、ノンディストーションときたら使わない手はない。クラプトンのスローハンドにアタックだぜ、ボス。又、コンプレッサーとしてリズムカッティングにも使えるのだぜ。

応用

ストラト等のシングル・コイル・ピックアップのように立ち上がりが強く減衰の早いギターに使うとより効果的。モードスイッチで高音域を強調したサステインが得られる。

使い方のポイント

ギターで音を伸ばしている時、弦に指で触れて振動を止めると効果もなくなるし、押えた弦をはなしても効果が切れる。だからギターの弦はしっかりと押え、特に単音の場合はフィンガー・ビブラートなどを活かして音をキープすることが効果を活かすコツだ。

参考

ノンディストーションとは、原音を変えないで音を伸ばせるということ。当然音が減衰する楽器でないと効果がでない。同様に音源の振動を止めるとこの効果も止まるということだ。



¥8,500

ボス!!こいつはたよりになる ボディガードですぜ。

ミュージシャンの敵、ノイズを追放するならNF-1だ。

全くノイズ一派の攻撃にはいつも悩まされるが、ノイズゲートという強力なボディガードが現われたぜ。ただノイズをシャットアウトするだけじゃない。ディケイツマミもついていて減衰時間を自由にセットできるので、音の切れ方に不自然さがないのだ。だからギターはもちろんキーボードにもＯＫというわけさ。

使い方のポイント

ノイズゲートは、エフェクターの最後に、つまりアンプの直前に入れること。（ディレーマシンの様に余韻をのこしたい時は、その前に入れる）センスのツマミは楽器の出力とノイズレベルによりうまく合わせること。

参考

ディケイとは信号のレベルがセンスで設定したレベル以下になった時の音の減衰を調節するツマミのことだ。センスとは信号のレベルと雑音のレベルの強弱に応じて調節するツマミのこと。



¥8,000

ボス!! バイオリン奏法だってお手のものだぜ。

あこがれのロイ・ブキャナンのバイオリン奏法ならSG-1だ。

今やボスに出来ないことはない。初心者だからってあきらめるのは早いぜ。ボス・ファミリーの助っ人スローギアという奴がいる。こいつを使えばあれあれ簡単、どんなギターでもバッチリ、バイオリン奏法が出来るんだ。もちろん上級者はそれなりに速弾きなんかもOKだ。

使い方のポイント

SG-1はあるレベルの入力信号が入るとオートでゆっくりとボリュームを上げていく動作をする。
だから前の音を残したまま次の音を入れるとまったく作動しないのだ。
前の音を消してから、次の音を弾くことが肝心。
センスのツマミはギターの出力やピッキングの強弱によってセットすること。



¥8,500

ボス!! この新入りはなかなかやりますぜ。

フェイズ+ディレイ+αの欲張りなフランジングサウンドならBF-1だ。

原音を遅延させて原音とミックスさせてみたら、フィルター効果が出たんでさあ。このディレイタイムに変化をつけたら音色が変わるんですぜ。なに!この新鮮なムードにゃボスもまいってるって!?

使い方のポイント

レゾナンスを強くするほど原音とは別の音があらわれて独特の効果をつくり出す訳だが、やはり倍音を多く含んだ固い音には効果的だし、ディストーションなんかの後につないだりした場合は特に強烈だ。
しかし、レゾナンスをあげすぎると、耳ざわりな音になる。控え目に。

参考

マニュアルは信号の遅れ時間を設定するもので0.5ms〜16msまでコントロールできる、これを中心に周期的な変化の巾を決めるのがデプス、変化の速さを決めるのがレートで、BF−1は100ms〜20sと巾広い設定が可能だ。



¥19,800

ボス!!こいつはイコライザーのきわめつけですぜ。

積極的なサウンドづくり、即興演奏にも威力を発揮するのが
GE-10だ。

こいつはＧＥ－６の兄貴分、さすがにすごいぜ。
31/62/125/250/500/1k/2k/4k/8k/16kHzと10素子で31Hz～16kHzまで音に合わせて、自在にコントロール。各々のスライダーはセンタークリック付、正確にすばやく０レベルにセットが可能。
さらにいえば、スイッチひとつでノーマルな状態を取り出すこともできるし、フットスイッチでノーマル／イコライザーの切替ができるので即興演奏にも威力を発揮するぞ。純電子方式でノイズ、SN比の悪化も追放。（SN比100dB以上）さすがに兄貴分、イコライザーの概念を大きく、拡げた功労者だぜ。



応用

Ｅ・ギター、シンセサイザーに接続したり、ミキサーに接続してライヴを楽しもう。テープのダビングにも役に立つぜ。



¥18,500

ボス!!これでエフェクターの領域（なわばり）も広くなりますぜ。

グラフィック・イコライザー、アタック、ディストーションとフル装備の**DB-5**

一台でソフト＆メロウからファンキー、ハードまで自由自在の音をこなすすごい奴だ。立ち上りの音を鮮明にするアタック強調回路付きなんてにくいじゃないか。
５素子イコライザーがノーマル／エフェクトのレベルの補正にも役立つし、ブースターにも使えるうえ、アタック・コントロールによってファンキーでタイトなストロークプレイにも大ウケ。ディストーションサウンドも選べるから、さらにバリエーションが拡がる。
これ１台でＥ・ベース、Ｅ・ギターの表現力が大きくなるのだ。

使い方のポイント

ベースにつなぐとウッドベースの音からバス・ドラムの音まで多彩な演出ができるぞ。
スイッチをアタックにしてエレキギターの12フレットより高いところをつかって弾くと、ハーモニックス奏法の音がでる。（オクターブ高い音が出る。）



¥16,000

ボス!!コーラスはメロウにいきやしょう。

サウンドをメロウにし厚みを加えるのならCE-1だ。

こいつは一人で何人分もの働きをしますぜ、ボス。音を重ねるコーラス効果と、ビブラート効果もついて立体的なサウンド空間を演出させるにはもってこいの奴ですぜ。ギター、キーボードはもちろん、ボーカルや管楽器にも使用すると驚く程の効果が出ますぜ。

使い方のポイント

コーラスにディストーションをかけてジェットコーラスなんてのはどう、迫力あるよ。

参考

リー・リトナー、エリック・クラプトン、ハービー・ハンコック、その他etc etc…のトップミュージシャンが使っているコーラスの決定版だ。クセのないキレイなコーラスはCE－1だけで、BOSS以外ではマネが出来ないのだ。

CE-2

待望のコンパクトコーラス登場!

コーラスのぶ厚いサウンドはCE－1ゆずりだ。



¥25,000

ボス!!そんなに急ぐと嫌われますぜ。

故トミー・ボーリンがこよなく愛した深いエコーサウンドならDM-1だ。

ギターにヴォーカルにエコー効果をかけるんですぜ、ボス。こっちはBBD使用のディレイマシーン、なんてったってディレイ・タイムが広く選べるところがミソだ。思いきってゆっくりディレイしましょうぜ。アンプ2台でステレオにすると、ぐっと音が広がり気分が乗るぜ。

応用

DM－1に2台のアンプを接続し、左右の音にディレイ・タイムの差をつければ豊かな残響で胸は一杯。左右でのデュエットも出来てしまうぜ。

参考

ノーマル音とディレイ音とのまぜ具合もツマミ1つでOK。BOSS KM－2を前につなげば入力も2つになり弾きがたりも出来るてえもんだ。何んてえたって使い方が簡単で、効果がバツグンだからやめられない。



¥35,000

ボス!!チューニングが出来れば一人前だって言いますぜ。

オールマイティなチューニングマシーンなら TU-120だ。

どんなに弾ける奴でもチューニングが悪ければすべてが台無し、チューニングは音楽の基本、これからすべてが始まるんだ。ところが、チューニングが出来れば一人前と言われるくらい難しく時間のかかるものなんだ。そこでボスの手を借りようってわけ。
このTU−120は基準音叉内蔵なので、速くしかも正確に必要な音を探し出すんだぜ。

調律の表示は、LED16点ストロボ方式の採用でわかりやすく、読み取り誤差をまったく追放。
それにコンサートピッチも簡単に得ることが出来るから練習も本番もおまかせ!ってわけだ。
こいつは、エレキ・ギター、ベースはもちろん、アコースティック楽器、キーボード、管弦楽器と、オールマイティに使える奴だぜ。



¥18,000

ボス!!チューニングはやっぱりカンよりボスですぜ。

ギター専用のチューナーならTU-60だ。

こいつはTU-120の弟分、非常に安定した基準発振器内蔵で、いつもベストチューニング。
エレキ・ギターはダイレクトに、アコースティックギターは内蔵マイクでチューニングできる、ギター専用のチューナーなのだ。
もちろんピッチの設定も簡単に行なえるし、調律の表示は、LED8点ストロボ方式でバッチリ。
サイズはギターケースに入るようコンパクト設計(ストラップ付)。
ギターケースにTU−60、これでチューニングは完璧だぜ。

参考

なぜLED方式が良いのかというと、目盛針式のように読み取り誤差がない、暗いところでもハッキリわかる、おまけに振動にも強い、からなのだ。
それにコンサートピッチが440Hz〜445Hz迄自由に選べる。



¥10,000

ボス!!ドクター・ビートは拍痴なおしの名医だぜ。

8ビートから複雑なシンコペーションまでリズムの練習にはDB-33だ。

今の世の中、リズムを味方にするとぐっと音楽がアップするんだぜ。リズム音痴＝拍痴にならないよういつも正確なビートをたたき込んでおくといいんだ。ドクター・ビートはボスのとっておきのブレーン。拍痴をなおすのにはもってこいの奴だ。ワンタッチでシンコペーションもOK。クラシックはもちろんディスコビートまで。もちろん自分でいろんなリズムを組み合わせることもできる、テンポ設定も♩=40〜208まで自由に選べる。ポケットにしのばせ、イヤホーンを使って一人でのるのも悪くないぜ。

参考 セッティングサンプル



①ビート指示のない例は、目的に応じてビートスイッチを切り換えよう。

②アクセントをつけたいときは、そのボリュームを他のボリュームよりも上にあげよう。



¥11,000

ボス!!これで奴らに差をつけようぜ。

コンパクトにまとめた実用派アンプならモニターにも使えるMA-5だ。

モニター・スピーカー・スタイルのちょっとキザな奴。小柄でもなかなかの実力者だぜ。5Wの実効出力は練習やちょっとしたセッションに最適。おまけにハイ・ロー2系統のインプットにボリューム、トーンのコントロールでノーマルサウンドからディストーションサウンドまで思いのまま。AUX INを使ってテープ・デッキやステレオ・ミキサーと手を組むのも自在だ。ヘッドホーンを使えば練習時間もグーンとのびる。これで奴らに差をつけようぜ。

参考 楽器店で実際にMA－5の音を聞いてみな。みんなその音量にビックリするだろう。スピーカーやキャビ、すべてボスの音響技術の粋を集めて作られた傑作だ。それに値段も安い、これ本当。



¥11,500

ボスファミリーと手をつなごうぜ。

なに、ボスの正体がだんだん見えてきたって。そりゃすごい進歩だ。今度はボスのファミリーをつぎからつぎへとつないで気に入った音を見つけよう。なんたって音の世界は無限なんだぜ。君の独自のサウンドは君のものなんだ。それから、憧れのミュージシャンに会ったり、どうしてそんなサウンドが出てくるようになったか思いめぐらしてみるのも楽しいぜ。音楽って素晴しい。音を追求していく君には、ベックもペイジもクラプトンもライバルだぜ。エリック・ゲイルもリー・リトナーもラリー・カールトンもみんなボスの熱烈な支持者。君も今日からボス・ファミリーと手をつなごうぜ。明日のスーパーアーティストを目ざして。

ヤツらのサウンドをつかめ



ボス!!みんなコピーから出発したんだ。

コピーする、といっても、ちっともはずかしいことじゃないぜ。どんな偉大なギタリストだってアーティストだって、はじめはみんなそこから出発したんだ。ワーワー・ワトソン、エリック・ゲイル、アル・ディメオラ達のサウンドのからくりがわかればシメたもの。エフェクターをひととおりマスターしたら、今度は実際どんなミュージシャンがどう使っているか探ってみようぜ。

しっかし、フランク・マリノのようにひとりで10〜20個も使いこなしているロッカーも少なくないんだよな。そこまで面倒みきれるかな。ボス、ともかくやってみようぜ！

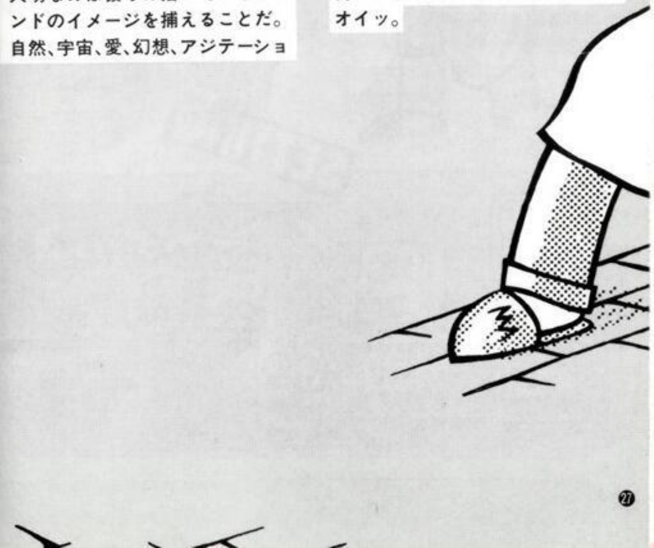


テクニックだけではダメだイメージも盗め。

ミュージシャンであるからにはテクニックはもちろん必要さ。だけどテクに走りすぎると肝心の音楽が死んでしまうんだよな。デイブ・メイソンにしてもテクを持っているけれどむやみやたらと出さないぜ。ここ一番と言う時に出ればそれでいいんだ。それより、もっと大切なのは彼らの描いているサウンドのイメージを捕えることだ。自然、宇宙、愛、幻想、アジテーション、ラスタファリの思想、つまり曲想をつかむことが先決だぜ。イメージをつかんでしまえばシメたもの。あとはどういうサウンド構成、どういうエフェクトになっているか研究すればいい。

ミュージックはハートなんだ、テクだけじゃないぜ。

音のクリエイターになろうぜなあ、オイッ。

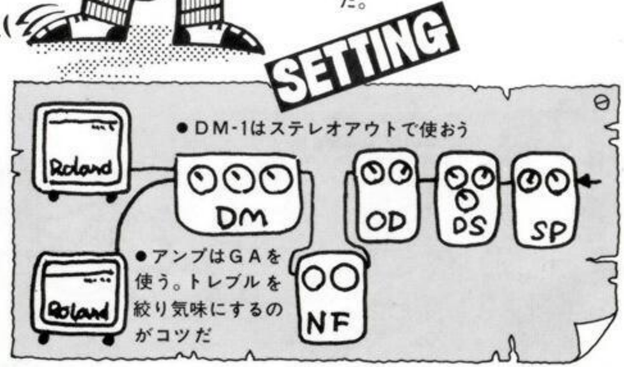


Jeff Beck
☆ジェフ・ベック



「ワイヤード」より
〝レッドブーツ〟

ギターはストラトに限るゾ！しかもクリアーなトーンにしてフレージングによりボリューム・トーンを微細にコントロールするのがキメ手だ。
ピックはハードを使っているようだ。

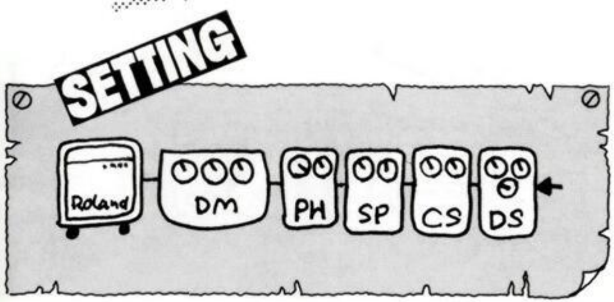


Carlos Santana
☆カルロス・サンタナ



「ムーン・フラワー」より
哀愁のヨーロッパ

ギターは当然レスポール、アンプはGAを使う。メランコリックなトーンニュアンスにはボスのエフェクターが最適なのだ。回転スピーカーを使っているそうだがDM-1、PH-1でゆったりした拡がり、奥行を決めたい。

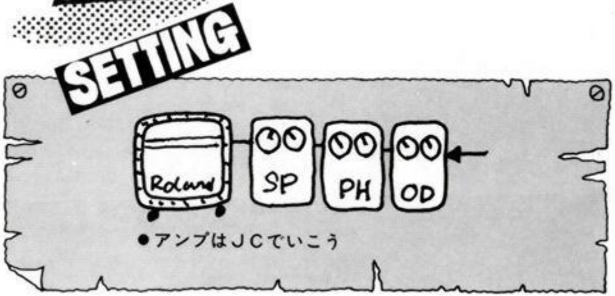


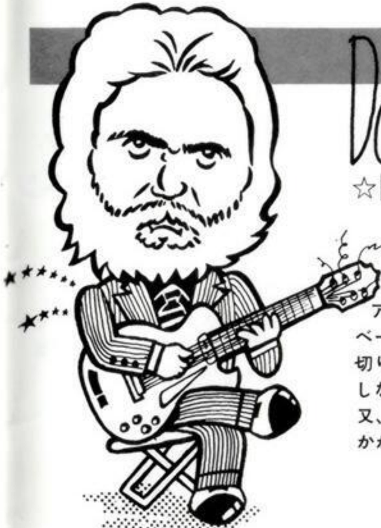


David Gilmour

☆ディヴ・ギルモア

「炎」より
〝葉巻はいかが〟



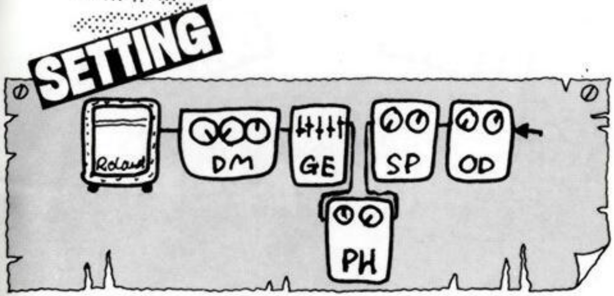


Don Felder

☆ドンフェルダー

「ホテルカリフォルニア」より
〝ホテルカリフォルニア〟

　アンプはＪＣしか考えられない。ベースPU、リードPUがいろいろ切り替わるのでピッキングに注意しながらいこう。
又、ソロコーラス目からかすかにかかるフェイズ音にも注目！

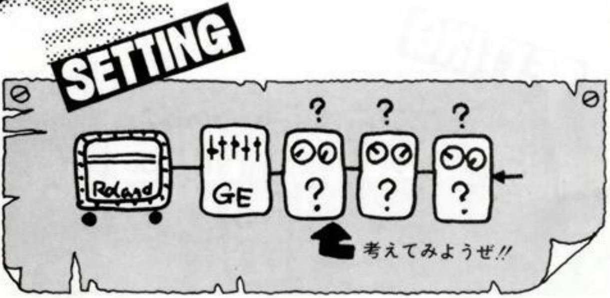




Larry Carlton ☆ラリーカールトン

「夜の彷徨」より
〝ルーム335〟

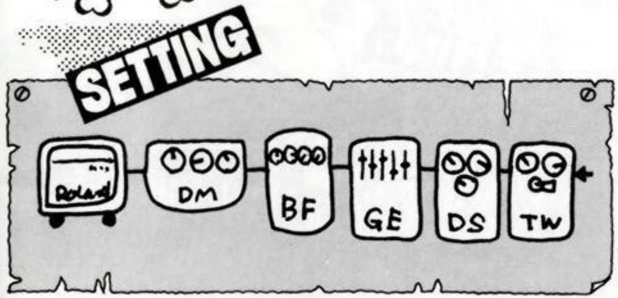
ギターはもう当然セミアコです。リフはリードPUで、歌メロはセンターで使いましょう。アンプはJCがキマリです。





Brian May ☆ブライアン・メイ

ギターはレスポールのトーンを絞って使いましょう。ピッキングにメリハリをつけるのがコツだ。ギターアンプはGAが適している。イギリスの6ペンス・コインで弾くとキマリ!!



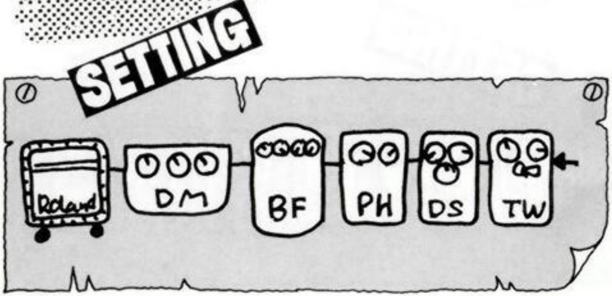


Frank Marino

☆フランク・マリノ

「鋼鉄の爪」より
〝イツ・ビガン・トウ・レイン〟

レスポールのＰＵをいそがしくいそがしく使い分ける必要があるし、アタック音を取るとすご〜くらしくなってくるので、パート、パートでＳＧ−１を使おう。ボスのフットボリュームが欲しいところだ。



もう一度ボスに登場願おう〈ボスの研究〉



ボスを使いこなすには当然コツがある。

ギターだけが相手じゃないぜ

エフェクターと言うとどうしてもＥギターとの結びつきが強いイメージだ。Ｅギターのサウンドはエフェクターによって拡がったんだからな。しかし近頃とみにハイライトを浴びてきているベースやこれからの主役になりそうなキーボードにもどんどん使って欲しいぜ。キーボードにしてもベースにしても既成の音だけじゃなく、もっと拡がっていく可能性があるんだ。またボーカルだって今や楽器の一つ、エフェクトをかけてそれなりのサウンド処理が出来るんだ。まだまだ無限の可能性を秘めてる音の世界——君もどんどんアタックしようぜ。

フレーズにあった エフェクターを選べ

ボス・ファミリーのエフェクターの数々。どれをとっても個性的な奴ばかりだぜ。しかし適材適所って言いますぜ。バリバリのヘビーメタルなフレーズにフェイズシフターをかけたっておかしくなるだけだ。要はフレーズにあったエフェクターを使うことだぜ。曲によってエフェクターを変えるのも効果的だし、一つの曲の中で数種を使いわけるのも最高にイカシている。君の気に入ってるフレーズにはどのエフェクターが似合うかな。ともかくボスと仲よく、そしてボスをつかいこなそうぜ。



ACA-100 ¥1,500（別売）

長時間の演奏には、専用のボスＡＣアダプター〝ACA−100〞が役に立ちますぜ。

ボス!!ディナーは乾電池1個でいいんですかい？

ボスの気嫌が悪いときにゃ気をつけろ。きっと腹がすいているんだぜ。ボスだってメシは食うんだ。ボスのディナーといっても乾電池1個だけ。働らけば働くほど電池はよく減る。意外と速いんだぜこれが。あわてて楽器屋へ駆け込む前に電池を新しいものに交換してみな。なんたって、コンパクトシリーズは電池交換がカンタン。コインさえあればＯＫだぜ。あっ、それからあと一つ。電気に詳しいからって、中味をさわらない方がいいぜ。ボスは気難し屋なんだから。



なぜボスが首領（ドン）でありえたか最後に説明しておこう！

まずボスがプロフェッショナルであったということ。

ボスはまず、狙った音は狂いなく射とめる技をもっている。またファミリーには優秀なスタッフが多く控えている。だからディストーションからチューニング・マシンまでボスファミリーで揃えることが出来るんだ。気心の知れ合ったボスファミリーで揃えると手を組むのも簡単っていうわけさ。それにボスのバックには長年エレクトロニクスを研究して来たすごいブレーンがついている。だから使いやすく、コンパクトでしかも性能は抜群なエフェクターが生まれたんだ。
それよりも何よりもボスは常に音に対する探究心が一杯だということ。音楽界に君臨したいという欲があったということだ。

ボスはエレクトロニクスの名門Roland家の一員だぜ。

BOSSは、シンセサイザー界の大御所、各種アンプでも定評のあるRoland家の出身だ。当然最も高度で進んでいるエレクトロニクスの技は生まれた時から身につけて来ている。このRolandの本家は、音の素を捕えているので、どんな音でも創り出せるというわけだ。そんなシンセサイザーを生み出すトータルな電子工学の技術がエフェクターのボス・ファミリーにも生かされているんだぜ。

ボスにはボツがない！

タイトなフレージングが決まってのってきた。さてエフェクト・オンなんてときに決まってやって来るのが、切換えのノイズ。ボッとかガリッ……。これがあると、全くボツだぜ。その点われらがボスにはボツがない。FET電子スイッチを採用。信号系から機械的な接点をなくし、雑音をシャットアウトしたのさ。もうこれで安心してプレイに熱中できるぜ。

まだまだ首領（ドン）の座は揺ぎそうにもないとのことだ。

ボスのコンパクトシリーズは発売以来実に15万台、切換スイッチの不良なしだからスゴイものだ。外タレ、プロも安心してステージで使っているぜ。5万回以上の耐久テストもラククラ合格！
小さなペダルに君の全体重をのせて思い切り踏んでも絶対こわれない頑丈な設計だ。



このお二人さんもお忘れなく

KM-2 ¥4,000



ライブにオーディオに、気軽に使える2チャンネル・ミキシングアンプ。

J-5 ¥2,800

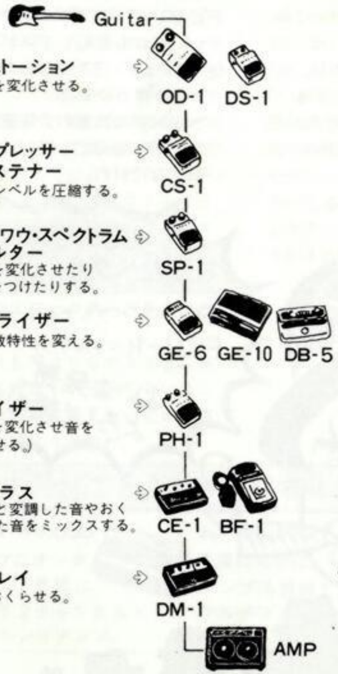


1度に4台のアンプを接続できるマルチプル・ジャック。

BOSSの憲法

個性派ぞろいのボスファミリーを
あやつるには、知っておいた方が得だぜ。

エフェクターのつなぎ方にタブーはないが､よりよい効果を生むためにエフェクターの基本的な性格から､その接続順序をまとめたのが次の図だぜ。



★ディストーション
波形を変化させる。

★コンプレッサー・サステナー
入力レベルを圧縮する。

★ワウ・ワウ・スペクトラムフィルター
音色を変化させたりくせをつけたりする。

★イコライザー
周波数特性を変える。

★フェイザー
位相を変化させ音をゆらせる｡)

★コーラス
原音と変調した音やおくらせた音をミックスする。

★ディレイ
音をおくらせる。

★タッチワウなどの前に入力信号を変えるエフェクターはつけない。
（ピッキングの強弱がなくなると、ワウがかからない。）
つなぐとすればOUT PUTの方へ。

★ディストーション系のエフェクターのＩＮＰＵＴ側に他のエフェクターをつないでも余り効果は出ない。（特にワウなど）

★ＯＤ-1の場合ＩＮＰＵＴ側にワウやスペクトラムをつないでも特有の効果が出せる。

★ＢＢＤ素子を使うエフェクター（コーラス・ディレイ・フランジャーなど）を多数使うとクロックどうしが干渉しあって不快な音が出るおそれがある。
(Boss とBossならだいじょうぶ｡)



応用 これ以外にもいろいろな接続の方法があるはずだ。実際にためして、発見してみようぜ。

ボスからのお願い

以上が個性あふれるボスファミリーのラインナップだ。
音の世界は広く、無限の可能性があるだろう。
この中で取り上げた他にも､サンタナの音はこうだとか、
もっと面白い音づくりを知っている諸君、
どんどんＢＯＳＳまで送ってほしい。
Vol. ２は諸君からの個性的な音づくりを中心に
まとめてみようと思っている。
採用者にはＢＯＳＳが
ステキなプレゼントを用意しているぞ。
ボスに負けない、ボスの使いこなし方を待ってるぜ!!



BOSS エフェクター コンパクト 事典

定価￥100

発行年月日　1979年8月31日初版発行
発行所　ボス株式会社
大阪市住之江区新北島5-2-66
☎(06)682-3331(代表)　〒559
発行責任者　山本克巳

BOSS